

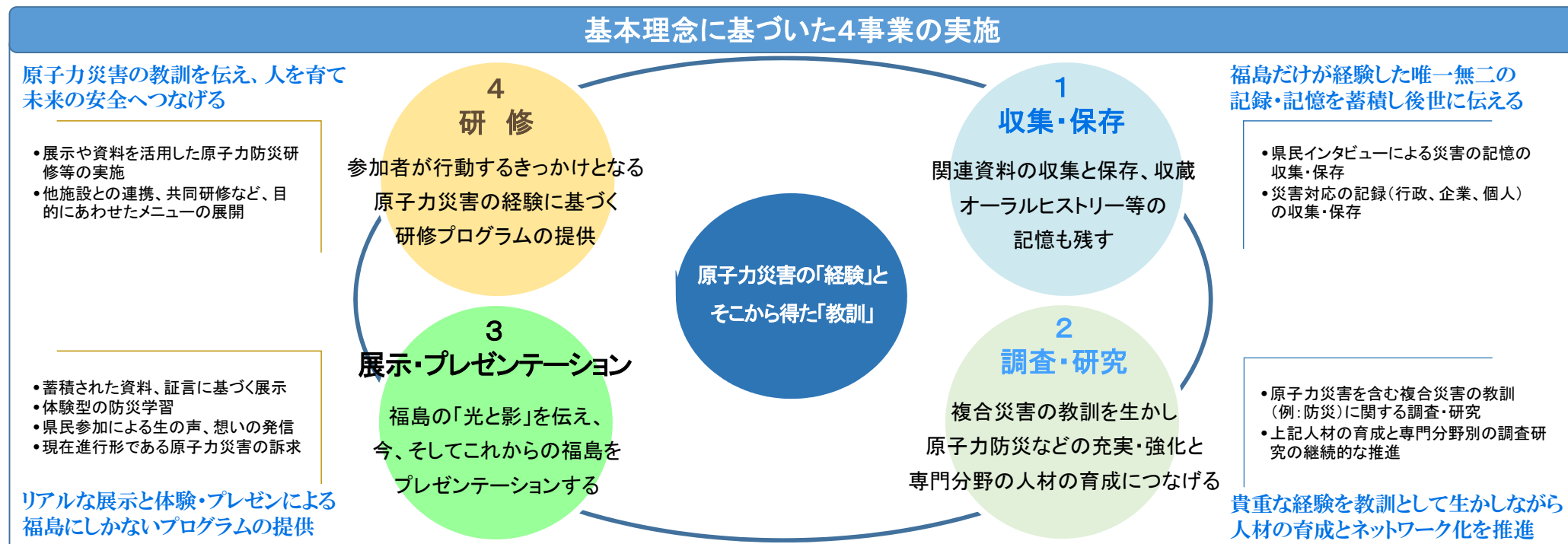
東日本大震災・原子力災害 アーカイブ拠点施設について



令和元年5月 福島県文化スポーツ局

■アーカイブ拠点施設における基本理念及び実施事業

東日本大震災及び原子力災害から8年が経過しました。福島県では、災害の記録と記憶を国や世代を越えて伝えるとともに、復興に向けて力強く進む福島県の姿や、これまで国内外からいただいた御支援に対する感謝の思いを発信する「東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設」の整備を進めています(令和2年度開所予定)。施設においては、震災・原子力災害、復興に向けた取組を発信する展示や、フィールドワークやワークショップ等の研修プログラムを実施していきます。



施設パース図

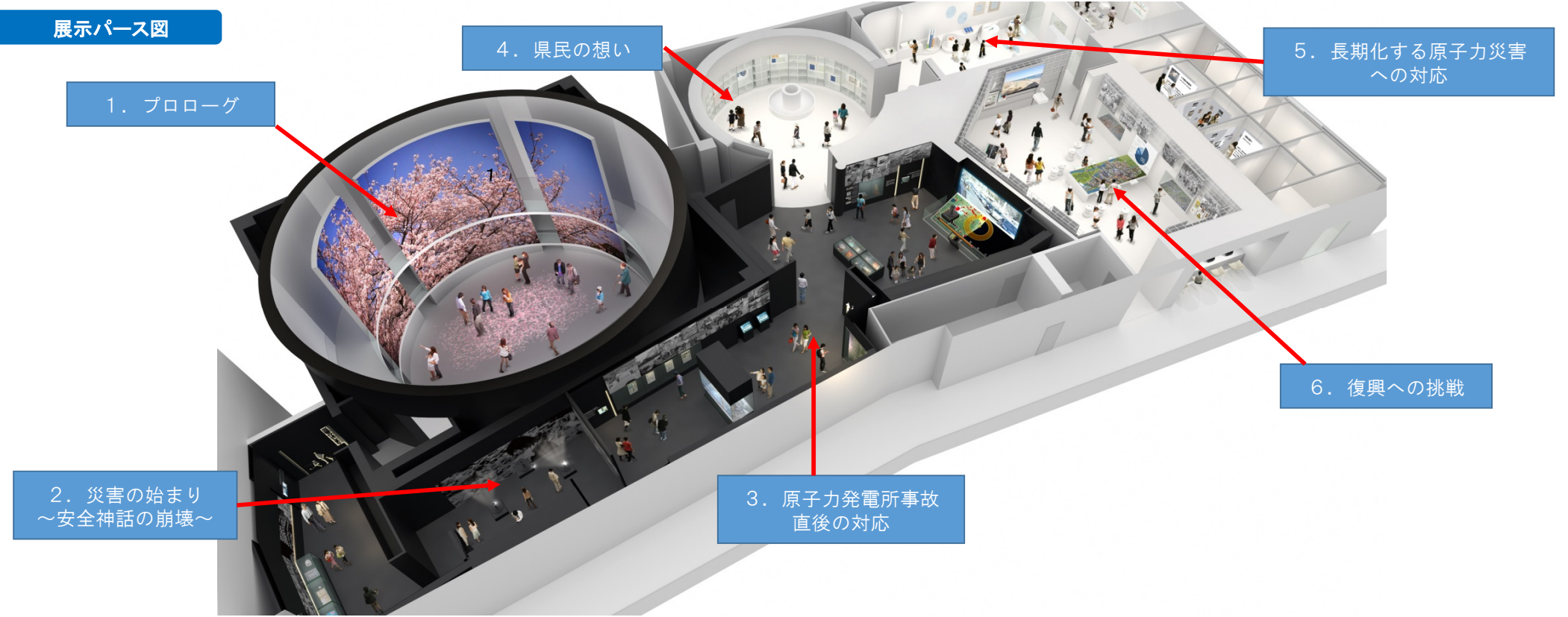


■ アーカイブ拠点施設における展示の概要

展示ストーリー



展示パース図



各ゾーンの展示内容(想定)

(1) プロローグ（導入シアター）

【概要】

展示の導入として、福島県の歴史や震災前の地域の生活、地震・津波そして原発事故の発生から住民避難、復興や廃炉に向けた取組について、床面を含めた7面スクリーンの映像を使い発信します。

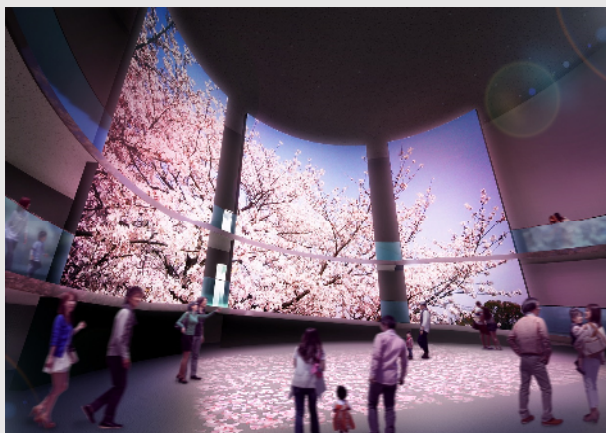
【主な展示構成】

- 福島県の歴史とエネルギー変遷
- 原子力発電所と地域の共存共栄の様子
- 3.11における大震災及び原子力発電所事故～避難
- 原子力発電所爆発～避難
- 避難を余儀なくされた町
- 除染～廃炉へ

【展示等内容】

- 導入映像

【展示イメージ】



(2) 災害の始まり～安全神話の崩壊～

【概要】

震災前の平穏な日常から、地震と津波、それに続く原発事故。事故前・事故発生時・事故直後の経過を時系列でたどり、原子力災害の始まりを克明に、臨場感と共に発信します。

【主な展示構成】

- 事故前の暮らし
- 東日本大震災～地震と津波の記録～
- 原子力発電所事故の発生
- 災害対策本部の記録

【展示等内容】

- 映像資料（証言、記録、報道等）
- 実物資料
- 解説（地図、文章、模型等）

【展示イメージ】



(3) 原子力発電所事故直後の対応

【概要】

原発事故後の避難、情報の錯綜、避難生活の変遷、国内外の事故事例などを参考とした手探りの初期対応、国内外からの注目など、原子力災害の初動の記録と記憶を、証言などをもとに振り返り、後世へと教訓を継承します。

【主な展示構成】

- 避難の開始
- 県内に広がる不安
- 国内外の反応と支援

【展示等内容】

- 映像資料（証言、記録、報道等）
- 実物資料
- 解説（地図、文章等）

【展示イメージ】



各ゾーンの展示内容(想定)

(4) 県民の想い

【概要】

震災前の平穏な「故郷の日常」と、その「日常」が原発事故を機にどのように変わってしまったのか、県民の想いを、「記憶（証言、筆跡、手記等）」と「記録（事実、データ等）」を組み合わせで発信します。

【主な展示構成】

- 災害時に感じた不安・恐れ
- 楽しかった学校生活と突然の別れ
- 家族との思い出や地域生活と分かれ
- 生活基盤の喪失と将来への不安

【展示等内容】

- 導入映像
- 映像資料（証言、記録）
- 実物資料

【展示イメージ】



(5) 長期化する原子力災害への対応

【概要】

原子力災害が長期化する中で、ふくしま（特に避難市町村）がどのように対応してきたか、原子力災害の「影響」とその「対応」、そして「教訓」を資料や体験を通して学ぶことで、防災に対する意識や知識の向上に寄与します。

【主な展示構成】

- 風評の払拭
- 除染の取り組み
- 長期避難に対する取り組み
- 健康不安に対する取り組み

【展示等内容】

- 映像資料（インタビュー等）
- 実物資料
- 解説（デジタルコンテンツ、数値等）
- 研修・ワークショップスペース

【展示イメージ】



(6) 復興への挑戦

【概要】

困難を乗り越え復興に挑戦するふくしまを紹介。避難により離れざるを得なかった故郷にもう一度戻り、新しいまちづくりに取り組むなど、人々の挑戦やふくしまの将来像をリアルタイムに発信します。

【主な展示構成】

- 廃炉の今
- 福島イノベーション・コースト構想の取り組み
- 12市町村の復興への取り組み
- 県民による復興への取り組み（チャレンジ！ふくしま）

【展示等内容】

- 映像資料（証言、プロモーション等）
- 実物資料
- 解説（デジタルコンテンツ、図表等）

【展示イメージ】



■ アーカイブ拠点施設における研修の概要

一般来館者（民間企業等の視察や研修を含む）を対象とした研修を実施します。

施設におけるガイダンス、解説付きの展示見学、フィールドワーク、語り部の講話、ワークショップ等を組み合わせた効果的なプログラムを用意し、来館者一人ひとりが未曾有の複合災害の経験や教訓を知り、学ぶとともに、将来の防災・減災に向け何ができるか考えるきっかけづくりを提供していく予定です。

基本プログラム（想定）

①ガイダンス

研修事業の始めに施設の研修室にて研修全体のガイダンスを実施

研修の始めにガイダンスを実施することで、目的意識を持ち研修を実施することができます。

②展示見学

アテンドによる展示解説を受けながらの展示見学

展示内容を実際に現地を目で見て、語り部の講話を耳で聞くことにより、効果的に研修を行うことができます。

③フィールドワーク 語り部講話

展示見学後、施設周辺のフィールドワークや語り部の講話等の実施

フィールドワーク後、振り返りのワークショップを行います。

④フォローアップ ワークショップ

施設に戻り、研修の振り返りをワークショップ形式にて実施

※プログラムについては個別の相談にて、柔軟に対応します。

※昼食や休憩スペースとして、研修室（122席程度）を活用いただくことができます。

専門プログラム（検討中）

防災、風評被害、復興といった分野での専門的プログラムについても現在検討しており、今後ご案内してまいります。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設案内図

至 南相馬市

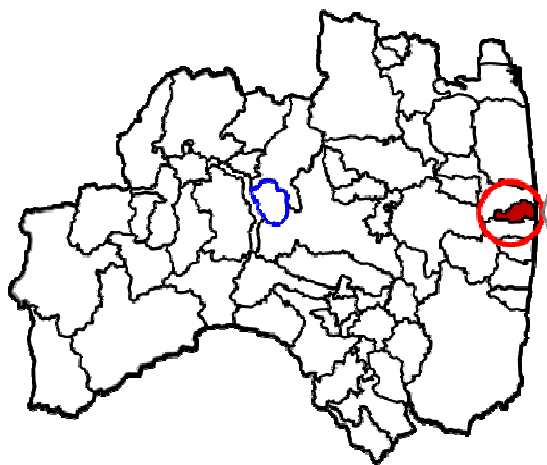
<案内図>

福島県双葉郡双葉町中野地内

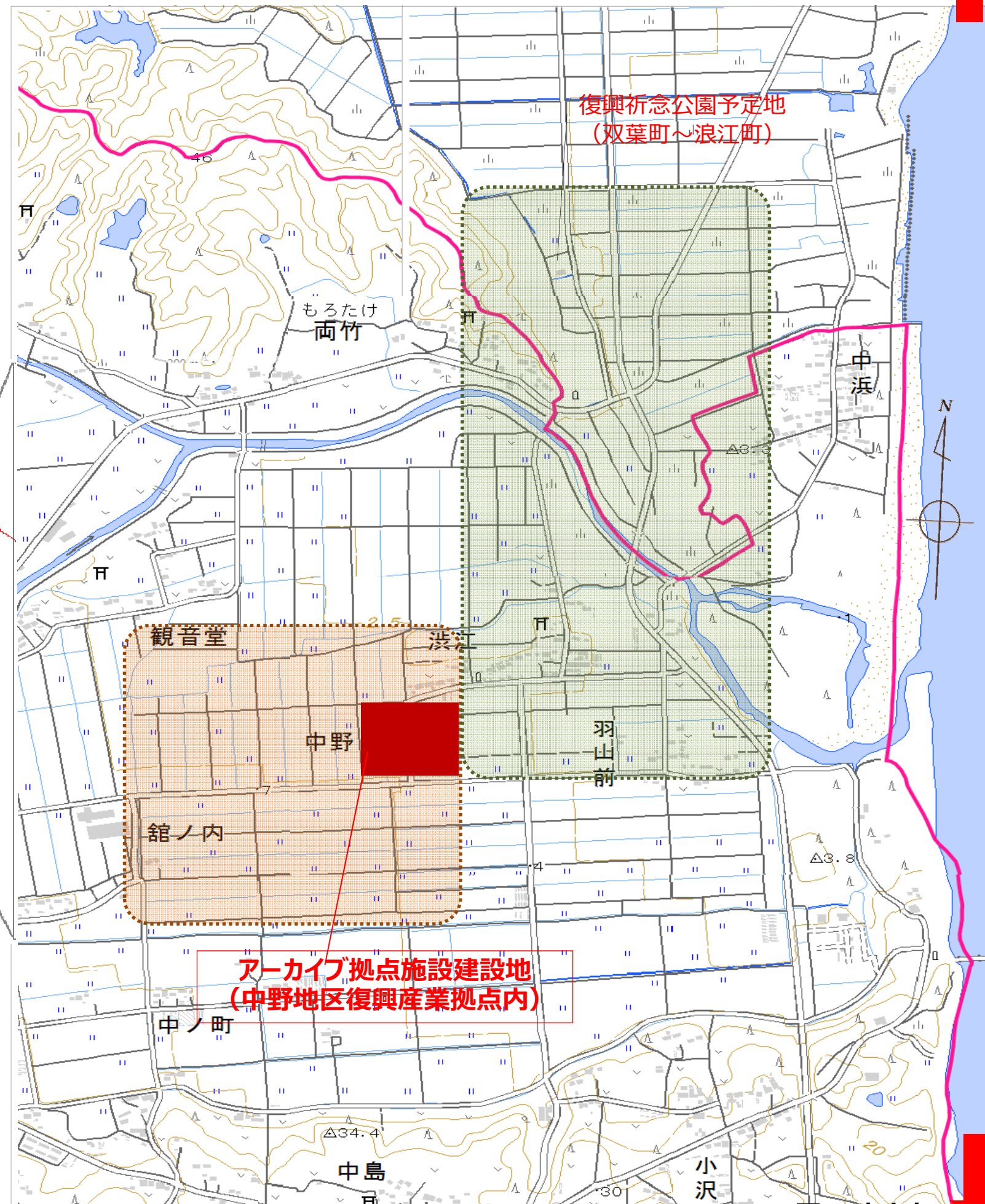
○常磐自動車道浪江ICから約12km

○常磐自動車道双葉IC（仮称・令和2年3月完成予定）から約7km

○JR常磐線双葉駅（令和2年3月末復旧予定）から約2km



お問い合わせ先
福島県文化スポーツ局
生涯学習課
電話024-521-778



相馬LNG基地
（約53km※）（新地町）
※アーカイブからの
距離、以下同



ロボットテストフィールド
（約24km）（南相馬市）

福島第一原子力発電所
（約8km）
（双葉町・大熊町）

東京電力廃炉資料館
（約15km）（富岡町）

モックアップ施設
（約27km）（楡葉町）



Jヴィレッジ
（約28km）（楡葉町）



至 いわき市